

地域と外国人を結ぶ 多文化コミュニケーションプランナー

だれもが同じ住民として、お互いの価値観を尊重し、みんなが助け合う「多文化共生社会」を目指す武田さん。日本語教室や地域との交流会などに取り組み、地域の人々とそこで暮らす外国人がつながるきっかけをつくる活動を支援しています。



京都府出身
たけだ ゆりこ
武田 有里子さん

外国の人に
佐賀の人の温かさに触れて
もらうことで、もっと佐賀を好き
になるきっかけとなればと
思っています。



武田さんの想いに共感し、
応援しています。
自分も地域のために活動を
つなげていきたいです。



住民より
メッセージ

佐賀県は市民
活動が活発だと感じています。さら
なる活性化に向け、自分が関わることで
CSOやNPOが抱える課題の解決に
つながりたいですね。



福岡県出身
のみやま しげる
野見山 茂さん

人と人をつなげて支える 『さがむすび隊』

たとえば子ども食堂を開きたいと思っ
ても、料理をしてくれる人や食材の確保など、
運営にはさまざまなハードルがあります。
野見山さんは、そういった「事業を行いた
い人」と、「必要なものを提供できる人や
団体」をつなぐサポートをしています。



住民より
メッセージ

日高さんの好奇心旺盛な
姿勢と取り組みのおかげで、
私たちも刺激を受けています。



山菜を通じて 里山の魅力を伝える

佐賀の里山には山菜のプロフェッショ
ナルがいて、旬の山菜料理を使った地域づく
りが盛んです。日高さんは、そうした先人
たちの知恵を料理から学び、佐賀の里山
ファンを増やすべく、地域に受け継がれて
きた山菜の知識とレシピを次の世代へ伝
える取り組みをしています。



滋賀県出身
ひだか りょうこ
日高 涼子さん

佐賀市富士町や
鹿島市で佐賀の山菜を学び
ながら、さまざまな団体と組んで山
菜に触れてもらうイベントを行ってい
ます。山の恵みを通じて、その地域に
関わる人口を増やしていくこと
が目標です。



地域おこし 協力隊とは？

人口減少や高齢化などの課題を抱える
地域に地域外から人を受け入れ“地域
協力活動”を行いながら、地域力の維
持・強化を図る取り組みです。県内
では41名の隊員が活動しています。

(令和5年4月1日時点)

地域おこし協力隊

地域の人々と一緒にその地域を盛り上げようと県外から移住して活動する「地域おこし協力隊」。佐賀県では、地域おこし協力隊と住民が一緒になって地域課題に取り組みやすい仕組みをつくり、県全体の地域力向上を目指しています。今月は、県全域をフィールドにさまざまなミッションに取り組み、活躍している隊員の皆さんを紹介します。

2014年に佐賀市富士町の地域おこし協力隊として東京から三瀬に移住し、現在は、佐賀県内で活動する地域おこし協力隊を支援している「佐賀県地域おこし協力隊ネットワーク」代表の門脇さんにお話を伺いました。

「地域おこし協力隊の取り組みは、地域の方から見ると、よそからきた移住者が勝手にやっているように思われがちです。でも、その地域に興味・関心を持ってやって来た人たちなので、地域の方にも協力隊がやっていることに関心を持って、そして仲良くなってほしい」と話します。

目指すのは、地域・協力隊・行政、すべての人がチームと

なって盛り上げ、みんなが地域力を向上させていくこと。県でも、協力隊希望者と地域のマッチングのための支援、起業・定住支援の拡充など、サポート体制を充実させています。

「住んでいる地域を盛り上げるために、やってみたいことがあれば、サポート役として協力隊にぜひ声をかけてほしい」と門脇さん。

地域おこし協力隊は、地域に新しい風を吹かせ、皆さんとともに佐賀県を盛り上げていきます。



東京都出身
佐賀県地域おこし協力隊
ネットワーク代表
かどまき めぐみ
門脇 恵さん

TOPICS 地域おこし協力隊の任期後も 県内でOB・OGが活躍しています！

おの まゆみ
太良町 小野 真由美さん

隊員の時は、子育てグループをつかったり、親子イベントを行うなど、子育てに悩む親や子どもに寄り添った支援を行っていました。卒業した今も、さが・子ども未来応援プロジェクト実行委員会として、子どもを中心とした居場所支援の仕事に就いて、充実した日々を過ごしています。



地域おこし協力隊の 活動レポート公開中！

佐賀県をフィールドに活躍している
隊員を紹介しています。

SAGA MEDIUM LAB.

